

マンモグラフィ併用乳がん検診早期発見のために

乳がんは約10年前より女性のがん罹患（りかん）の第一位となり、女性の食生活やライフスタイルの変化によりさらに増加する疾患として注目されています。

乳がんの発生は30歳以降から増え始め40歳後半をピークとして、ここ20年に2倍まで増加しています。年間に約3万5000人の方が乳がんにかかり、一年に約1万人の方が死亡しています。

現在のところ乳がんの有効な予防法はありません。早く発見することが大切です。がんは発見が早ければ早いほど治癒率は高く、早期のがんでは95%以上治すことができます。

乳がんは他のがんと違い、外部から触れることができるので定期的な自己検診や触診を中心とした検診によってしこり（がん）を発見することが多いです。

しかし、自覚症状のない時に発見（早期発見）し治療ができれば乳房を温存する部分切除（早期治療）ですむだけでなく、生存率の向上が期待されます。マンモグラフィ（乳房エックス線撮影装置）を使用すると、まだしこりとして触知できないような乳がんも発見することができます。マンモグラフィは専用のレントゲン装置を使用して、乳房撮影するもので、視触診とあわせて検診を行うと従来の1.5～3倍の発見率があります。

超音波を利用した検査もありますが、現在のところマンモグラフィの乳がん検出率が高とも高いとされています。最近の認定されたマンモグラフィによるレントゲン被ばく量は非常に少なく、リスクよりメリットの方が多いです。

堺市ではすでに乳がん検診にマンモグラフィを取り入れています。堺市医師会でもマンモグラフィ併用乳がん検診の研修会を定期的に行い、より正確で精度の高い検診を行っていただけるように努めています。乳がん検診を受けましょう。

平成16年12月
高田 直樹